

SNS及びオンラインゲーム等の利用について

日頃より、本校の教育活動へご協力していただきありがとうございます。昨今、市内外でSNSに関わるトラブルが急増しており、本校でも注意喚起を行っている状況です。SNS等のサービスは日常生活に必要不可欠なものであり、非常に便利な道具として用いられています。

その反面、使い方次第では危険な一面も潜在しており、利用者のモラルや未成年利用者による保護者監督が必要なサービスでもあります。ご家庭内でお子様が気付かない間に、加害者・被害者にならないよう、より一層の指導や監督を行っていただきますようお願いいたします。

1、市内外で発生しているSNS等の被害例

- (1) SNS ((例) LINE、Facebook、Instagram、YouTube、TikTok、X 等) を利用時
- ① 中学年の児童が、友達の顔写真とともにからかう歌を投稿。その後、全世界に発信され、民事裁判まで発展した。
 - ② LINE を使い始めた児童が友達同士のグループを作成。グループ内において、不用意な連絡や着信を繰り返し行い、家庭間でトラブルに発展した。
 - ③ LINE による仲間外れが発生。その後、情報を聞いた被害児童が「学校に登校できない」「行きたくない」と不登校となり、いじめの重大事態に発展した。
 - ④ 同じSNS内で、子どもが他の利用している投稿者に対し、人格を罵倒する書き込みを行った。その後、保護者が法的責任(監督義務、民事)を負うこととなった。
 - ⑤ 子どもが保護者のSNSアカウントで勝手に不用意な書き込みを行い、保護者が全責任を負うことになり、日常生活に支障をきたす事態になった。
 - ⑥ 年齢制限のあるアプリにも関わらず、子どもが年齢を偽ってアカウントを作成して利用し始めた。アプリ利用時に不用意な書き込みを行ったことから保護者の監督責任が生じ、その後の利用を一切禁止とする事態になった。

消費者庁より

SNSによる相談件数が**8万6千件超(2024年度)**。現在も増加傾向にある(2023年度の6万件超の過去最多を更新)。また、相談件数の年齢層も幅が広く、老若男女を問わな



消費者庁より

相談件数増加の主な要因は、SNS利用者の増加及び利用時間の長期化、広告をきっかけとした詐欺サイトや勧誘、デジタル化に伴うモラル意識の低下(投稿が手軽、情報が拡散しやすいなど)などが考えられる。

ちなみに、小学生のSNS被害者は、ここ10年で約5倍に増加。スマートフォン利用の低年齢化が背景にある。

(2) オンラインゲームを利用時

- ① 子どもがゲーム内で10万円以上の課金を行った。(聞き取りから、保護者が入力したパスワードを覚えていたことで課金ができるような状況だった。)
- ② ゲーム中、「黙れよ」「うぜー」「死ね」「殺す」などの罵倒する言葉が原因で、家庭や学校を巻き込んだトラブルに発展した。
- ③ ゲーム内で面識のない友達ができ、遊び始めたことがきっかけ。特に制限や時間を設定することなく、昼夜を問わず、ゲームに依存してしまったことから睡眠不足や生活リズムの乱れが生じ、身体や精神面で支障をきたすようになり、通院するようになった。

2、ご家庭でご確認していただく重要事項

(1) 利用アプリの利用年齢制限の確認

大人がSNS（オンラインゲームを含む）のサービスで何ができるのか、機能や利用規約を十分に理解しておくようにしてください。

特に、**利用者が未成年者である場合は、親権者等の法定代理人の同意を得たうえでサービスを利用すること、利用者自身の責任においてサービスを利用すること、利用の結果利害関係が生じた場合には、監督者である保護者が民事・刑事上の責任を負うことなどを大人がまず認識しておくこと**が大切です。

主な SNS 名	利用を禁じている年齢について
LINE 	なし（18 歳未満は利用できない機能がある） ※年齢、本人確認の有無、登録情報の有無、その他、会社が必要と判断する条件を満たした利用者限定して提供。 ※運営会社より、青少年保護を目的として 2020 年 1 月「利用推奨年齢 12 歳以上にする」と変更。さらに iPhone などの利用端末の年齢設定が 12 歳以下になっている場合は、利用不可。
Facebook 	原則 13 歳未満 ※アカウント作成時、誕生日や写真付き身分証明書の提出などによる年齢確認を求められる場合あり。 ※13 歳以上であれば未成年者でも利用可能だが、保護者と話し合い、適切な利用方法や注意点を理解した上での利用を推奨。そのため、保護的な背設定が可能。
Instagram 	13 歳未満 ※13 歳未満の利用は禁止。13 歳未満のアカウントは削除される場合がある。 ※例外的なケースもあるが、アカウントの自己紹介に保護者が管理している旨を明記し、必要に応じて成人運営を証明する必要あり。
X (旧名: Twitter) 	13 歳未満 ※13 歳に満たない場合で作成すると、アカウントはロックされ、保護者に同意を求める通知がされる。 ※同意なしに利用、条件を満たさなかった場合、アカウントがロックされる。
YouTube 	13 歳未満 ※親または保護者の許可があれば、13 歳未満の子どもは利用可能、視聴できるコンテンツや利用できる機能が制限される。
TikTok 	規約上、13 歳未満利用不可 ※13 歳未満が利用していると発覚した場合、該当アカウントが永久に停止される。 また、一部機能には年齢制限がある（DMやコンテンツのダウンロードなど）

★主なオンラインゲーム

(フォートナイトの場合)

- ・利用は13歳以上。
- ・13～17歳の場合は親権者または法的保護者の許可を得る必要あり。
- ・年齢を偽って参加した場合、アカウントが永久凍結(利用停止)される可能性あり。

(マイクラフトの場合)

- ・公式な年齢制限は、なし。ただし、PEGI レーティング【7+】・ESRB レーティング【10+】というように自主規制対象にされている部分がある。保護者が操作をサポートしたり、プレイ時間を管理したりすることが推奨されている。

(スプラトゥーン・あつまれ どうぶつの森・マリオカートの場合)

- ・日本国内においては、年齢制限はなし。ただし、オンラインプレイには「ニンテンドーアカウント」が必要なため、12歳以下がアカウントを作成する場合は、保護者が「子どもアカウント」を作成し、みまもり設定によって購入などの利用を制限することができる。

(ポケットモンスターシリーズの場合)

- ・サービスによって異なるが、18歳未満は保護者の同意が必要であったり、13歳未満は保護者管理アカウントが必要となったりする場合が多い。

(2) 家庭でのご指導のポイント

- ① 子どもが利用しているSNS等の利用規約を確認し、重要な部分は子どもに説明する。
(利用規約は長く難しいので、子どもが自分で熟読することはないものと考えておく。)
- ② 年齢制限に満たないSNSやオンラインゲームの利用については、監督者である保護者が民事・刑事上の責任を負うことを子どもに理解させた上で、利用のルールや、定期的な内容の把握を行う。
- ③ SNS等によって子どもにどんなリスクが降りかかるのか、大人が子どもと一緒にニュース(具体的な事例)を見たり、話し合ったりする機会をもつ。
- ④ 大人がペアレンタルコントロールやフィルタリングを設定し、子どもが利用できるSNSやアプリを制限する。
- ⑤ SNS等のトラブルが起きたときや起こりそうなとき、子どもが大人に相談できるような信頼関係をつくっておく。
- ⑥ 子ども間のSNS等の利用で、危険の可能性を感じたときは、監督者としてためらわず、相手のご家庭に情報提供することで双方のご家庭の事故防止に努める。

【参考資料】

[保護者向け普及啓発リーフレット「ネット・スマホ活用世代の保護者が知っておきたいポイント」](#)

(こども家庭庁 HP より)

[ネットの危険から子どもを守るために保護者が知っておきたいこと](#)

(政府広報オンラインより)



3 学校、保護者ができること・しなければいけないこと（例）

SNSでのトラブル発生

※ライン等で不適切な画像・動画を流出してしまった場合

<学校側ができること>

- ・被害を受けた児童への
寄り添い
- ・人間関係の改善に向けた取組
- ・加害児童への指導
- ・発達段階に応じた
情報モラル教育の実施
- ・メディアリテラシー教育
への理解を深める取組

<加害側の保護者に発生する責任>

- ・被害を受けた児童及び保護者への謝罪
- ・誹謗中傷をしてしまった投稿の削除
- ・個人やグループへ拡散した投稿の削除
- ・送信相手に対する削除依頼
- ・削除依頼が完了したかの確認
- ・サイトやSNS管理者への削除依頼
等

※上記に挙げたのは、ほんの一例です。また、学校でできることには限りがあります。

**SNS上のトラブルにおける保護者の責任は、
極めて重いと認識することが大切です。**

SNSのご家庭のルールについて、お子さんと今一度見直しをしてください。

【SNSについてのルール（参考）】

- ・スマホやSNSの設定は、保護者と一緒にする。勝手に設定を変えない。
- ・名前や学校名、住所など個人情報を分かるようなことは発信しない。
- ・他人の悪口や、他の人に見せられないような内容は発信しない。
- ・自分や他の人の顔が分かるような写真は載せない。
- ・保護者と一緒に決めた利用時間や利用場所を守る。
- ・位置情報はオフにする。
- ・知らない人と連絡は取らず、SNSを通じて会わない。